

平成30年度 東京都立中野工業高等学校(全)学校経営報告

校長 鴻野 誠

目指す学校

本校は真に自立した社会人の育成を目指す学校である。そのために、「あいさつを大事にして職業人としての立ち居振る舞いができる生徒」、「就職・進学試験に合格できる学力の定着」を育成目標として掲げ、キャリア技術科の特色を生かして、教職員が学習指導、進路指導、生活指導、自立支援等に組織的に取り組む学校を目指す。

具体的な学校像

- 1 人権尊重を基盤とした教育活動を推進し、命に関わる重大事故やいじめ・体罰の無い学校
- 2 産業界や関係機関から信頼され、ものづくりをとおして社会に貢献していく人材を育てる学校
- 3 法令を守り社会規範、社是・社訓、就業規則の内容を理解し適正に職務を遂行できる態度を着実に身につけさせる学校
- 4 将来、就業先で上司から指示、指導・助言された内容を素直に履行できる態度を育てる学校
- 5 仕事を中心とした社会生活を送ることができる体力や働く力を身に付けさせる学校
- 6 書類作成上必要な基礎的な知識・技能と読み書き計算の能力を繰り返し、着実に身につけさせる学校
- 7 挨拶を基本とする社会人として必要なコミュニケーション能力を確実に身につけさせる学校
- 8 日本国の一員として納税の義務を果たし、社会に貢献できる社会人を育てる学校
- 9 基本的な生活習慣を育成するとともに、規範意識をもった人間を育てる学校
- 10 自分自身を大切にするとともに、他者に対しても思いやることのできる生徒を育てる学校
- 11 教職員が一丸となって生徒に必要な態度と能力を身につけさせる学校
- 12 保護者・地域社会から信頼され、保護者・地域社会と一体となって教育が推進できる学校
- 13 教育活動の円滑な実施に向け自律経営推進予算の手続きの遵守による計画的な予算執行を行う学校
- 14 就職・進学に結びつく学力の基礎・基本を定着させる学校
- 15 働き方改革を推進し、教職員が生き生きと職務を遂行し、教育活動を行う学校
- 16 教職員のサービスの厳正を図り、サービス事故のない学校

中長期目標

平成38年度を目途に校舎の全面改築及び施設・設備の改修の検討を進めることで、地域企業及び地域住民や保護者から支持される学校づくりを推進する。
 本校の教育課程に設置された機械科目、食品工業科目、工業化学科目の特色を出し、新たに工業科目として電気工事関係、環境設備関係科目、物流関係科目、品質管理科目等の導入の検討を継続させ、次世代の産業構造と産業界から求められる人材を育成するための教育を創造する。また、東京都の都立高校改革推進計画・新実施計画に基づき、校舎の改築及び施設・設備の改修の検討を進めることで、地域企業及び地域住民や保護者から支持される学校づくりを推進する。

方策

- 1 地域の関係団体及び企業、都民などへのニーズを把握するとともに、東京都中小企業振興公社、東京都商工会議所等の協力を得て、社会や産業界からのニーズに応えられる学校を開発する。
- 2 平成38年度完成予定の改築の基本計画に基づいて、東京都、中野区、地域社会、学校が連携し、地域住民の理解と生徒の教育活動を維持・発展させながら着実に進めていく。
- 3 全面改築工事の基本計画実施に向けて、改築委員会を中心に東京都、設計関係企業と連携し、将来の工業高校の姿をイメージした設計を行い、安全で確実な工事の実施を図る。

今年度の重点目標

具体的な方策

1 オリンピック・パラリンピック教育の推進

- 1 全ての教育活動をととしたオリンピック・パラリンピック教育の充実
- 2 オリンピック・パラリンピックの理解と啓発
- 3 体験的な活動の実施

大会の意義や歴史、文化的なかかわりについて学ぶ全ての教育活動を年間授業計画に位置付け、学校全体で組織的、計画的に取り組む。体力テスト実施に向けて年度当初から取り組み、都の平均値を超えるように努める。

2 エンカレッジスクールとして着実な教育活動の実施

- 1 YSWと連携を図った中途退学対策事業の推進
- 2 進級・特別指導規定等校内規定の弾力化
- 3 中途退学ゼロ
- 4 特別指導件数5件以内

自立支援事業継続校として、不登校、中途退学者、再就職者への対応を組織的に進める。校内規定等の弾力化を進め、学校に対する生徒の帰属意識と真に自立した社会人になるための意欲を高める。

3 キャリア教育の充実

- 1 一人一社企業訪問を目指す。
- 2 1学年企業見学(100%)
- 3 2学年インターシップ参加(100%)
- 4 3学年進路決定率(100%)

体系的なキャリア教育の全体計画を教職員に周知し、分掌横断的な連携を図った取組を行う。都や産業界主催のイベント、中小企業振興公社や東京都商工会議所との連携による企業開拓等を実施する。工業系大学との協定等、大学進学への進路開発を行う。

4 生徒のチャレンジの支援

- 1 生徒をもっと外に出せ！キャンペーンを展開し、新たな課題に挑戦した生徒を賞揚する。
- 2 部活動、地域貢献活動、資格取得、研究発表等の支援

部活動の活性化、地域行事への参加、各種資格取得への取組、研究発表大会への積極的なチャレンジ参加等を奨励し、生徒の達成感と自信、新たなチャレンジ精神を醸成する。

5 新学習指導要領に基づく学力観の転換と教員の授業力向上

- 1 アクティブラーニング推進校としての研究の実施
- 2 教員の相互授業観察(年間2回)
- 3 教員のICT活用授業率(90%以上)
- 4 生徒による授業評価で「分かりやすい」回答率(90%以上)

アクティブラーニング指定校としての研究と教科横断的な授業改善を実施し、カリキュラムマネジメントを教科全体で進める。同教科、異なる教科各1回相互授業観察を実施し、ICT活用授業を学期に1回、年3回実施させる(授業観察、学校評価等で確認する)。

6 主権者教育の充実

- 1 全ての教育活動をととした主権者教育の充実
- 2 主権者としての理解と啓発
- 3 体験的な活動の実施

生徒会選挙や区の選挙管理委員会との連携による模擬選挙等の体験的な取組を実施し、社会の一員としての自覚や有権者としての役割等について身につけるための活動を実施する。

7 教職員の働き方改革とサービスの厳正

- 1 職務の共有化・個別化、職務の質的転換
ライフ・ワークバランスの推進
- 2 服務事故防止研修の意図的、継続的、計画的な実施

ICTの活用、定期考査の統一問題化を進める。職務をスケジュール化し、効率的に行う体制をつくる。服務事故防止研修をはじめ、社会、他校での事故を教訓にして、未然防止の意識を醸成する。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
学校経営推進部	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校経営マネジメントの強化 2 学校経営計画の重点目標の実現 3 アクティブラーニング推進校としての取り組み 4 副校長の支援 	<p>学校が直面している課題について、率直な意見交換を踏まえて組織的な運営に取り組むための計画立案と実施を主導し、学校経営計画に基づく組織的な運営を行った。</p> <p>生徒の進路実現及び充実した学校生活に向け、問題点等の改善策を提案し、教職員に働きかけた。エンカレッジスクール完成年度に向けた準備と改善策の実施を継続していく。</p> <p>推進校1年目として他県の先進校の取り組みを直接訪問して学び、本校に還元できるよう計画を立てた。推進校2年目に向けてより効果的な活用ができるよう、校内研修を実施して継続的に取り組む。</p> <p>生活指導基準・教務内規確定・募集広報活動強化を図り、活気ある学校生活に向けて組織的に取り組むよう、分掌・学年・類型主任の連絡調整を行い、組織的運営に向け、教職員が主任への報告を密にし主体的に行動できるよう、副校長を補佐した。</p>
総務部	<ol style="list-style-type: none"> 1 改築工事に向けての進行管理 2 広報活動の充実 3 防災教育の充実 4 「エンカレ通信」の充実 	<p>ほぼ月1回の基本設計打合せで項目整理と進捗管理を行ったことで、円滑な改築工事の進行管理ができた。次年度も継続する。</p> <p>学校案内・リーフレットを作成し、夏季休業日中及びインターンシップ期間中の中学校訪問を活性化することで、100校、訪問校が増加した。今年度の状況を分析し、来年度の募集広報活動に反映させる。9月には中エオープンキャンパス実施した。</p> <p>避難訓練を4回実施し、野方消防署と連携した宿泊防災訓練を9月に実施した。各回の適切な実施時期の検討と、訓練内容の充実を検討し次年度につなげる。</p> <p>個別相談会の1月実施では生徒会・部活動生徒を参加させた。HP更新とエンカレ通信を月1回発行した。来年度に向けた効果的な説明会等の日程、内容を検討し、広報活動のためのHPを充実させる。</p>
キャリア技術科	<ol style="list-style-type: none"> 1 工業三類型の教育課程の開発 2 戦略的な企業開拓 3 資格取得への取り組み 4 産振備品、薬品等の計画的な廃棄 5 産業教育設備等の効果的な活用 	<p>情報技術基礎については、計算技術検定指導と情報系授業の進め方を研究できた。ものづくり基礎については、今年度の反省を踏まえまだまだ研究する。次年度はものづくり基礎の補講やレポート指導等について、研究を進める。</p> <p>企業開拓としての取り組みは、できなかった。次年度は新規開拓も継続して行いが、インターンシップ受入企業との連携を大切にしたい。</p> <p>計算技術検定は、1年4級全員受験、2級受験者は出せなかった。次年度の計算技術検定は、1年は4級の合格率の向上、3級受験者の増加を目指す。</p> <p>備品チェックなどを行い、廃棄予定備品の把握を進めることができた。有害薬品等もリスト化が進んでいるので、次年度は廃棄処理を進める。</p> <p>課題研究や部活動、選択科目などで有効活用している。消耗品等の購入を計画的に進める。次年度も継続する。</p>
教務部	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程の適正な実施 2 諸帳簿の適正な管理 3 入学者選抜の実施内容の検討 4 エンカレッジスクールにおける学校設定科目の編成 5 校内規定の検討 	<p>教育課程委員会や拡大教務部会を主催し、意見交換を経て来年度入学生の教育課程確定に向け準備を行った。エンカレッジスクール完成年度に向けた準備を継続する。</p> <p>学校全体として3学期制だが、2学期制の体験Ⅰ・Ⅱの成績処理について、入力方法の統一を図り周知徹底の準備を行った。各学年への入力日程と正確な入力・保存の呼びかけも引き続き行う。</p> <p>入選委員会と問題作成委員会に働きかけた。学校が望む理想の生徒像に合致した問題作成と、適切な問題に仕上げた。来年度は問題作成委員の選定と出題方針・内容の厳選を行いたい。</p> <p>教室増と展開数の増加による使用教室一覧の作成と全定の教職員への周知を実施した。来年度時間割の早期確定は毎年度行いたい。</p> <p>企画調整会議に働きかけ、現場での意見徴収を行い、生徒を支援する仕組みを構築した。エンカレッジスクール完成年度に向けた準備を継続する。早い段階から行う。</p>
生徒部	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校チームとして一体となった指導の確立 2 基本的生活習慣の確立 3 オリンピック・パラリンピック教育の推進 4 地域社会との連携による社会貢献活動の充実 5 部活動合同合宿の実施 	<p>生徒指導規定全体の見直し、頭髮指導のあり方に時間がかかったが、全職員の意見の集約して提示することができた。次年度は全職員が同じ基準で指導できるよう、さらにわかりやすいものにする。</p> <p>全体での取り組みと共に生徒会活動の一環として「あいさつ運動」を行った。全てにおいて継続的に実施していく。</p> <p>パラリンピック選手による講演+実技は生徒の反応も良く、意識の向上に役立った。継続実施していき、生徒の意識向上に取り組む。次年度は生徒会による活動がさらに活発になるよう企画・立案する。</p> <p>今後も生徒会を中心に継続実施していき、生徒と職員の意識向上に取り組む。</p> <p>8月1日～3日の期間に合同合宿を実施した。部活動合宿の充実と、活性化に向けて継続実施していく。</p>
進路指導部	<ol style="list-style-type: none"> 1 キャリア教育の充実 2 産業界との連携によるキャリア講座の実施 3 インターンシップの拡充 4 就職試験に向けた取組 5 定着率・離職率の調査の実施 	<p>進路指導部関与の元各学年で進路ガイダンス等を催し、進路について外部講師を招き講演した。次年度も学年との連携を取りながら就職情報提供社やYSW等の外部の協力を取り入れて、キャリア教育に幅を持たせる。</p> <p>11月に1学年全員が産業交流展に参加し、企業と直接話を聞くことで、生徒の職業観の育成に役立てることができた。来年度は事前指導に企業研究の時間を取って望みたい。</p> <p>現場で実際に仕事を体験したことにより、職業観の形成、進路選択能力の向上、社会人として必要なマナーの習得コミュニケーション能力の育成を図ることができた。12月の協議会の結果を参考にし次年度の計画を練り直す。</p> <p>進路課題(SPIや一般常識問題)を5回、面接指導を4回行い就職試験に備えた結果、学校幹旋内定者が100%。来年度は求人数の現状に合わせた就職希望者が出せるよう求人票や就職情報開示の迅速化し就職希望を多くする進路指導をする。</p> <p>平成29年度に学校幹旋で就職した59社に電話し調査した。来年度は卒業後の就職幹旋が可能なシステムを作りたい。</p>

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
第1学年	1 学年の指導体制の構築 2 中途退学防止に関する取組 3 保護者との連携 4 あいさつ・身だしなみ・時間を守る指導の充実 5 キャリア教育の充実 6 行事の活性化	面接指導、保護者面談を実施し個々の生徒状況を確認し指導に努めた。一人ひとりの生徒育成や指導の対応をさらに進める必要があった。来年度もいじめや体罰の無い学年を目指す組織的な連携指導をさらに強める。 「全員進級を目指す」の学年目標は達成できなかったが、早期対応や組織を活用し特にSC、YSW等との連携強化を図ることはできた。次年度も教科担当、生徒部、SC、YSW等との連携を生徒面談、補習を実施し「全員進級」を目指す。 保護者に適宜連絡を行い、生活面や学習面等に協力体制を回り、ほぼ生徒に意識付けができた。来年度も全生徒の指導体制をさらに検討、実施する。保護者に適宜連絡、協力体制の充実をさらに進め、生活面や学習面等を充実させる。 生徒部と連携し、遅刻指導・身だしなみ指導等を徹底してきた。継続して教室や廊下等で身だしなみが守れていない生徒の指導をさらに進める。組織的な取り組みや保護者との連携を重視し継続的な身だしなみ等の指導徹底を行う。 キャリアガイダンス、面談、企業見学を実施した結果、進路に対する考えや目標が芽生えてきたが、専門知識やルール、マナーの育成が重要である。次年度はキャリアガイダンスの内容を整理、検討し個々の生徒の職業意識の育成に努める。 体育祭、文化祭など多くの行事に参加し、自分の役割を認識し行動する大切さを理解する生徒が増えたが、帰属意識が弱い生徒が多かった。次年度は帰属意識の重要性を確認し生徒を育成し、多くの行事への参加する意識付けを進める。
第2学年	1 学年の指導体制の構築 2 中退防止に関する取組 3 保護者との連携 4 あいさつ・身だしなみ・時間を守る指導の充実 5 キャリア教育の充実 6 行事の活性化	学年団で一致団結し、他の分掌と連携し指導にあたり多少の問題はあったがいじめや体罰のない学年になった。今以上に指導の充実を図り、いじめや体罰の無い学年を目指す。 SC、YSW、カウンセラー等と連携し、退学防止を図ったが進路変更ゼロにはならなかった。引き続き退学防止にむけて連携の強化と指導の充実を図る。 保護者と連絡を密にし、協力しながら生徒指導等に当たった。次年度も保護者と連絡を密にし進路にたいする目的意識を持たせ進路指導の充実を図る。 生徒部と連携し、服装・頭髪指導等を継続的に、粘り強く行った。引き続き連携を強化し、指導の徹底を図る。 進路指導部と連携し5日間のインターンシップ、進路ガイダンス等をおこない、目的意識を持たせた。次年度の日程については、企業の様々な意見があり再考の余地がある。 体育祭、文化祭等でそれぞれの役割果たそうとする姿勢が多くみられた。さらに、帰属意識を持たせるための指導を行っていく。
第3学年	1 学年の指導体制の構築 2 中退防止に関する検討 3 保護者との連携 4 あいさつ・身だしなみ・時間を守る指導の充実 5 キャリア教育の充実 6 行事の活性化	3年生として、学校行事などを通し最後の日々を団結し、いじめや体罰のない学年となった。特に生徒部と連携し学年団の結束を図ることが重要であるので継続する。 校内のYSW委員会などと連携し退学防止を図ったが、進路変更者が出てしまった。SC・YSW委員会との連携が重要であるので継続する。 保護者とは密に連携し、進路等に関して熱心に交流した。三者面談や個別の連絡を密に取り協力体制を取り合い進めていく。 一部の生徒が頭髪や身だしなみなどに違反することもあったが、生徒部と連携し改善することができた。基本的な生活習慣を身につけさせる指導を生徒部と連携し怠らない。 2学期からの進路活動において進路指導部と連携し真剣に指導を続けた結果、現在未定者は残り数名となった。進路指導を進路部と連携を組み徹底して進める。時期を逸さないよう行う。 中工祭の参加率は高く、充実した出し物をそろえ、各クラス熱心に最後の行事を行うことができた。3年生は最上学年であることの自覚を持たせ積極的に活動させる。
機械類型	1 授業や実習を通じて規範意識の向上 2 資格取得と検定受検の促進 3 ものづくりをとoshた職業人の育成 4 企業・外部施設との連携	その時々々の機会に実施しているが、継続指導が必要である。特に1年生への対応は今後も引き続きの検討が必要と考える。2年生を含めた、エンカレッジ生への対応の検討と生徒自身の意識の向上を図る。 機械製図検定・基礎製図検定・ガス溶接技能講習を実施した。来年度は、業者の関係からガス溶接講習会は実施しないが、資格取得への推進と実施を実現する。今年度の検定の他に3級情報技術検定などの資格取得を推進し合格を目指す。 ものづくりへの興味・関心と本校(工業高校)への帰属意識は同等として併記できるように感じる。ものづくりを通した帰属意識の改革が必要と感じる。ものづくりへの興味関心を高めるための工夫を検討し、生徒のやりがいや帰属意識の向上を図る。 企業見学先への検討など遅滞なく行ったが、企業見学は実施できなかった。来年度は今年度以上の工夫と、実施に向けた検討を重ねる。多くの機会を生徒に提供し、学生と社会人との違いを工業高校生としての自覚を図る。
食品工業類型	1 授業や実習をとoshた規範意識の向上 2 資格取得と検定受検の促進 3 ものづくりをとoshた職業人の育成 4 企業・外部施設・人材の活用	継続的に実施したが、一人残らずというわけにはいかなかった。今後も引き続き、規範意識の向上を指導していく。エンカレッジを踏まえ、規範意識を持った生徒の育成指導の徹底を図る。 初級バイオ技術者認定試験5名合格、食品衛生責任者25名合格、情報技術検定、パソコン利用技術検定を実施した。次年度は検定受験をさらに促進するために授業にも絡め、講習会等を充実させる。 実習をとoshて継続的に製品製造を実施した。中部フェスタへの食品工業類型の生徒参加を促進し、外に出る体制を継承した。授業を通じて身に付けた技術や製造した製品を持ち、生徒を外部和関わらせることで、自己肯定感を高める。 FOOMA、施設見学(うち新規2件)を実施した。体験Ⅰ(調理)に外部講師を招聘し、授業を行った。来年度はより実践的な工場・施設見学、授業となるよう工夫していく。
工業化学類型	1 資格取得の奨励と進路意識の向上 2 資格取得と検定受検の促進 3 ものづくりをとoshた職業人の育成 4 企業・外部施設との連携	今年度は十分な指導ができていなかった。次年度に向けて実習の集合場所や集合状態の変更を検討し、資格取得のための意識付けを朝礼から実施したい。 eco検定、初級バイオの指導は実施しなかった。体験Ⅱの内容は決定することができた。危険物は、少人数だが合格者を出せた。来年度は受検者人数を向上させる。 文化祭で選択科目や課題研究のポスター発表を行った。次年度も研究ポスターを校内に掲示し、下級生や来校者にPRする。 3E、2Eともに企業見学を実施できた。来年度は施設見学や展示会の見学を増やす。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
各教科	1 資格取得と検定受験の促進 2 授業や実習における規範意識の向上 3 エンカレッジスクールの評価と計画の促進 4 次期学習指導要領に基づく授業改善 5 オリンピック・パラリンピック教育の充実	初級バイオ技術者認定試験、食品衛生責任者、情報技術検定、パソコン利用技術検定を実施した。検定受験をさらに促進するために授業にも絡め、講習会等を充実させる。 継続的に実施している。また、特に実習では、安全教育を含めて規範意識の向上に努めている。エンカレッジを踏まえ、規範意識を持った生徒の育成指導の徹底を図る。 2人担任制による、よりきめ細やかな指導を実施した。また、類型選択に役立つよう進路ガイダンスを設定した。中途退学防止に効果的な評価規準や基準の見直しを行う。 先進校視察(2校)を実施したほか、推進校1年目として、エンカレッジ教育を軸としたアクティブ・ラーニング教育を推進した。全教科で取り組めるように活動を推進していく。 11月にオリパラ講演会を実施したほか、課題研究でオリパラに向けて新製品開発を実施し、11月の東京都高等学校工業科生徒研究成果発表会で東京都産業教育振興会長賞を受賞した。今後も継続していくような工夫を図る。
経営企画室	1 学校経営状況の把握と分析 2 学校経営参画の推進 3 適正な事務運営 4 施設・設備の保安全管理 5 校舎改築準備の適正管理	必要な情報を収集分析し、エンカレッジスクールに係る予算を適切に執行した。学校経営状況の把握と分析を行い、来年度につなげる。学校経営状況の把握と分析を行い、来年度につなげる。 教職員との連携に努めた。学校経営に積極的に参画する必要がある。教職員と連携し、学校経営参画の推進を図る。 根拠や規則に基づいた事務処理を行った。日常的に業務の進捗確認を適切に行っていく。適正な事務運営を行い、業務改善を図る。 故障箇所等は速やかに修繕し、維持保全に努めた。施設設備の維持保全に努め、環境改善を図る。 改築に係る資料閲覧や現場確認は可能な限り対応・協力をおこなった。引き続き校舎改築基本設計作業に遅滞がないよう進行管理をおこなう。
改築委員会	1 改築工事に向けた検討 2 地域住民との連携と協力 3 エンカレッジスクールの進行管理	月1回の定例会議で面積を確定することができ、設備検討を始めた。来年度も継続して検討を進め、新しい中野工業の新校舎に向けて基本設計を充実させる。 説明会は学校以外の場所で行うことになった。日程調整後関係機関と連携して実施し、地域住民の協力を得て、旧校舎解体、新校舎建設に備えたい。 適宜調整し安全な教育活動が実施できるように努めた。改築計画の進捗に合わせ、生徒の安全第一を確保する。
教育課程委員会	1 学校課題の抽出・課題解決策の検討 2 教育課程の実施に係る検討 3 新たな学校設定科目の設置	類型選択と合わせて、生徒の進路実現がかなうよう教育課程を編成した。学校経営計画及びグラウンドデザイン確定と合致させて確定させていく。 教務部、拡大教務部会を2回開催した。多くの意見交換の内容を基に改善し、来年度の教育課程を確定させた。今後も継続して拡大教務部会を実施し、教育課程委員会とリンクさせる。 体験Ⅰ・Ⅱの講座内容を確定させた。市民講師の申請を経て、生徒の進路実現に向けた支援を行っていく。継続して市民講師の申請及び確保を行う。
類型選択指導委員会	1 類型選択指導計画の策定と実施 2 コース選択指導の実施 3 生徒の適性に応じたコース選択の実施	学年と調整し、学年集会と6月実施の保護者会で説明した。来年度も日程や指導計画を検討し、学年、類型と調整を図る。 夏季休業日前に第1回希望調査を集約した。今年度同様、次年度も日程や指導計画を検討し、学年、類型と調整を図る。 第2回希望調査集約した結果、コース選択が確定した。次年度は 類型選択方法を含め、生徒の学習意欲向上につながる方策を検討する。
図書運営委員会	1 図書資料の計画的な収集・整理・保管・提供 2 生徒の読書活動の推進のための図書館利用の促進 3 受託者(業務責任者)への適切な業務指示と法令を遵守した図書館運営	図書選定基準に基づき、年間を通して蔵書の見直し、補充を行うことができた。専門科目、エンカレッジの教育課程に即した蔵書の充実を引き続き図る。 図書リクエスト制度を見直し、専門科目の強化を行ったことにより、図書館利用を促進した。校内の広報活動を積極的に行い、図書館利用者の促進を図る。 業務仕様書に基づき適切な業務指示を行った。継続して仕様書、図書館マニュアルに基づいた適切な業務指示を行う。
教科書選定委員会	1 平成31年度選定教科書の調査研究 2 委員会の適正な開催 3 適正な教科書選定	補助教材・附則9条本の選定まで行った。次年度においても、学習指導要領の各教科の目標等を踏まえ、各教科書の特徴や違いが明確にわかるよう、調査研究を行う。 真に必要なときのみ委員会を開催したため、昨年と比べて開催回数は減少しているが、内容は充実していた。年に4回開催し、教科書の内容や構成について高等学校用教科書調査研究資料等を活用し検討する。 エンカレッジスクールへの移行期間ということもあり、例年はない作業が加わったため、誤りのないように注意して臨んだ。来年度も各教科と連携を図り教科書の調査研究結果及び生徒の実態等を踏まえて、最も適切な教科書を選定する。
学力向上推進委員会	1 就職試験・大学受験に合格する学力の定着にむけた授業力向上 2 生徒の学力を正確に把握し、基礎学力の定着を図る 3 生徒授業評価の実施	引き継ぎ不十分のためスタートとなったが、若手教員の研究授業が多く、その中で指導法が錬磨された。今年度の反省を踏まえ、引き継ぎが十分行えた。次年度も継続して授業力を向上させていく。 学年団で基礎力診断テストが実施されているが、平均して最低レベルD-が多数であった。次年度は教材を変更し、補講や補習の対象生徒の範囲を変えてスタディサポートシステムを確立し、成長を望む生徒を伸ばして行くようにする。 集約した授業評価の結果を検討し、次年度に反映させる。次年度も継続する。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
SC・YSW・いじめ対策委員会	1 スクールカウンセリングの充実 2 特別な支援を要する生徒指導の充実 3 校内研修の充実 4 自立支援チームとの連携 5 いじめの早期発見 6 いじめ防止策の充実	<p>授業と並行しての実施により6月で全員面接が終了、放課後の個別面接の充実を図ることができ相談件数も増えた。全員面接を授業と並行した実施の継続。個別相談の充実させたい。</p> <p>生徒情報シートを活用した情報共有・連携により組織的な対応を図ることができた。学校支援カードの作成・活用が課題。情報共有しやすい生徒情報シートの改定及び学校支援カードの作成、活用について検討。</p> <p>中野特別支援学校と連携し、1学期・2学期に校内研修会を実施。次年度も生徒支援に役立つ研修内容について検討していく。中野特別支援学校との連携を継続する。生徒支援に役立つ研修会を年2回実施。</p> <p>毎月定例会を実施し、SC・YSW・学年・生徒部・関係機関と連携を図り生徒の自立に向けた支援を実施した。定例会を毎月実施し、SC・YSW・学年・生徒部・その他関係機関との連携の一層の充実を図る。</p> <p>定例会での情報共有と毎学期実施のアンケートにより、いじめの早期発見に努めた。また、いじめを疑う案件に対し、臨時委員会を適宜開催し迅速かつ組織的に対応することができた。いじめアンケート年3回実施。いじめ案件発生時の対応フローチャートを活用した迅速な対応を組織的に行う。</p> <p>本校の学校いじめ防止指針の再編および、いじめ案件発生時の対応フローチャートの作成を行うことで共通理解を図り、組織的対応の基礎を固める事ができた。全教員が本校のいじめ防止指針を理解し、いじめ防止対策を組織的に行う。</p>
安全衛生委員会	1 職場における安全衛生に関する検討 2 職員の健康維持	<p>産業医の先生を中心として、月1回の定例会議を行い、職場の環境改善に努めた。次年度以降も継続し職場環境の改善に努める。</p> <p>事務所衛生基準に規則に基づく空気環境測定を行い、職場環境の改善に努めた。基準値を超えないよう到来年度も努める。</p>
学校保健委員会	1 生徒の健康づくりの推進 2 学校医等と連携した生徒の健康促進の検討	<p>5月に全教職員に提示し、理解と協力を図ることができた。年間保健計画に従い実施することができた。生徒の健康課題(特にメンタル面)に即した計画の立案を行う。</p> <p>学校保健委員会2回実施、(9・2月) 生徒の健康課題に即した文化祭の展示内容の充実を図った。精神科校医相談12月末まで5回実施、担任の生徒支援に大いに役立った。学校保健委員会年2回実施。生徒保健委員会活動(文化祭)の充実。精神科校医相談、毎月実施を検討する。</p>
入選委員会	1 現行の入学者選抜方法の検証 2 実技検査の作成	<p>本校の望む理想の生徒像を確定させ、問題作成委員会へ適切な指示を出し、実技検査問題及び面接質問内容を確定させた。次年度は今年度の出題問題を基に、エンカレッジスクール完成年度への構想を立てる。</p> <p>実技検査問題の出題ミスを防ぐよう、組織的に複数人・複数回の確認作業を徹底した。次年度は今年度の問題作成手順を基に、エンカレッジスクール完成年度への構想を立てる。</p>
ICT委員会	1 ICT機器の点検 2 ICT機器の利用に関する検討	<p>プリンターの登録について、総務局情報通信企画部企画課と対応し、年度内にカラーコピーができるよう調整できた。次年度以降も校内機器の維持管理の対応を行う。</p> <p>朝会でICT機器の利用を促すことができた。次年度も利用を促すよう呼びかけることで、ICTの利用率を上げていく。</p>
学校サポートチーム	1 スクールカウンセリングに関する検討 2 いじめに関する検討 3 YSWに関する検討	<p>生徒情報共有シートを活用し、月1回の定例会で情報共有を行った。2回の校内研修会を実施し生徒理解に努めた。次年度も定例会と情報シートを活用し、校内研修会を実施する。</p> <p>いじめアンケート、ストレス度自己診断テストの実施で情報共有を図った。いじめの早期発見のため、いじめアンケート・ストレス度自己診断テストを継続する。</p> <p>YSWと連携し、生徒の進路に対して支援を継続して今年度も行った。在校生だけでなく、卒業生の支援についても一層の周知を図りたい。</p>
防災教育委員会	1 学校安全計画の検討 2 保護者、地域との連携の検討	<p>今年度も地域の参加を呼びかけ宿泊防災訓練を実施した。昨年度の反省点を改善することで、学年と担当との連携が取れた防災訓練を実施することができた。次年度も継続する。</p> <p>防災教育推進委員会と関係機関との連携確認を行った。宿泊防災訓練を9月に実施し、防災意識を高めた。次年度も継続する。</p>
人間と社会委員会	1 自己の在り方・生き方観の醸成 2 インターシップによるキャリア教育の充実	<p>4つごとのテーマごとに担当者を決めて、順次全クラスをまわり演習を行った。4つの演習テーマについて指導体制の構築を図る。</p> <p>11月に進路指導部の指導のもと、2学年全員に対してインターンシップを実施し、成果を得られた。企業との連携を図り、職業人として在るべき姿を学ぶ。</p>